はお前をもうお國へさし上げたのだと考へてゐる。お前の働いてゐるところは、大切な軍需品をつくる工場ではないか、と叱咤してゐるのである。

この手紙のことが會社當事者の耳に入り、全從業員に披露された。手紙をよむ專務も、よんでゆくに從つて泣かされたといふ。冷靜に考へると平凡な手紙である。いまの時代なら誰でも考へねばならぬことを、率直に書いてゐるにすぎないのだ。しかもそれは惻々と胸を打つ手紙であつた、やつぱり私はこれを平凡だとはいひきれない。まあ不平を起さず一生懸命に働け、さうすれば上の人にも可愛がつて、そのうちにはエラクなるからといふやうな手紙ならそれこそ誰でも書く一にもお國、二にもお國で、ピッタリと氣持を定めるところ、これは一寸智慧があるとか、悧巧といふのでは書けぬ手紙である。

この少年工の場合は、待遇が不服だとか何とかいつたのではないやうだが、とにかく色々な理由でほかの會社へ移りたいとか、はやく出世したいとかといふ問題は昔から絶えぬ。そんなとき唯一の慰めに用ひられたのは心抱すればいまによくなるのだからガマンして、移り氣や短氣では損だといふやうな論法である。しかし古來もつとも利き目があると信じられてゐた、この種の論法や考へ方といふものは意外に効能のないものである。その證據にブウブウと不平を鳴らして妄動する輩は、それこそ濱の眞砂のごとくに絶えないのである。

すべてはお國大事、この一言こそ金鐵の重みがある。何やら難しい理窟を覺えさせられてゐる不幸な人には、その重みはわかるまい。だがそんな人にはわからなくてもいゝのである。現に增產の第一線に立つて素晴らしい成績をあげてゐるやうな工場は、その重みを知つてゐる人によつて統率され、その重みを知つてゐ

る人によつて動かされてゐる工場である。戰場に立つ將卒が何を考へて奮戰してゐるかはいふまでもない。

問題は國家の安危といふことを、單に言葉として受けとるか、骨髓をもつて受けとるかにかゝつてゐる。そしていまの日本、昔の日本は、すべて後者に屬する人々によつてのみ動かされてきた「國家」を說くだけで經濟建設などできるものではない。それ金をやれ、それ何をやれといふのは、自ら「國」を知らぬものゝいふこと、神國をユダヤに擬するものである。いつたい金だの何だのといふものは、そんなに吳れたがらなくてもモリモリと仕事を進展させれば否應なしについてまわるものだ。ギブ・アンド・テークなどゝいふ舶來の標語は願ひ下げにしようそこからほんとうの「日本經濟」がはじまる。そのほんもの「日本經濟」でなければ戰爭は勝てぬ。（九・一六）

東亞親邦の意義

世界新秩序の建設に當つて、わが國がその指導的な立場に立つことは、既に多くの人々によつて說かれてきたことであるが、それではどのやうな意味で日本が指導者となるのかといへば、いまだ必ずしも諸說が一致したとはいへない。民主主義的な東亞聯盟論や、帝國主義戰爭反對のスローガンに便乘した左翼的民族解放論は、一應影をひそめたやうにみえるが、事實はまだまだ愼重に吟味警戒すべきものがあるやうに思ふ。

卑近な例でいへば皇軍の治下に入つた諸地域が、米英的勢力の下にあつた頃より經濟狀態が逼迫するといふやうなことがあつては、とても民心を收攬することができぬといふ俗見からして徒らに一時的な歡心を買ふことによつて現地住民にわが國の立場を諒解させようとするやうな考へ方もなくはないのである。もちろんこれは世界戰爭のきびしい現實の前には物の役にも立たぬ自由主義的な民族統治論であるが、何かの機會あるごとにこの種の論議が頭を擡げるのは大いに警戒を要するところであらう。

嘗て左翼が大衆獲得のために宣傳して廻つたやうな明日にも極樂ができるといふやうな空宣傳が、この大きな世界建設長期戰に際して正しい使命を果すことができないことはいふまでもあるまい。却つてさうした一時逃れの空宣傳こそ、長期戰における厭戰反戰思想の培養基となるものである。現地住民よ、われらと苦

樂を俱にせよといふわが政府の呼びかけは、その理念を呑み込ませる上に多くの困難はあるであらうが、眞實こそ最後の勝利を確保するたゞ一つの途である。

一口に占領地統治といつても、その土地の民族民情の相違によつて具體的なやり方には色々とあるであらう。しかし個々のやり方は異つても日本が東亞諸國の父であり、母であり、兄であるといふ一事は論議の餘地がないところである。この點單に政治や經濟の形の上だけの關係で成立する米英的な支配關係しかわからないものには到底納得のゆくところではない。これまでの色々な議論の最大な缺陷は、今日の新らしい事態を說明するのに依然として古臭い昔ながらの方法論で何とか結論をつけてしまはうとするところにあるといへるであらう。

昨九月十五日、わが國の滿洲國承認の佳日を卜して、滿洲國建國十周年記念の

式典が擧げられたが、當日渙布された滿洲國皇帝の勅語は、實に日本を盟主とする東亞諸國の在るべき姿を剩すところなく明らかに示されたところであつた。卽ち右の勅語には

溯リテ天照大神ノ神廟ト
天皇陛下ノ保佑トニ賴リ我國建國ノ業ヲ創メシヨリ

と日滿兩國の特異な親邦關係の淵由を示し、さらに

似キテ神廟ヲ迸ヘ祇ミテ
明命ヲ承ケ
親邦ノ天業ヲ奉翼シ

と弟たり子たる國の使命がわが天業恢弘の大使命の一翼を擔ふにあることが明示されてゐるのである。

實に滿洲建國はこのやうな意味で未だ嘗て世界史上他にその例をみない新らしい世界國家建設の範となり、その出發點となつたものであつた。この機會に改めてこの歷史的意義を回顧して、東亞新秩序の來るべき姿をハッキリと見定める資としたいと思ふ。（九・一七）

學生服と職工服

近頃の中學生の服裝をみてゐると、中學生だか、いはゆる產業戰士だかわからないものが段々多くなつてきたやうである。國防色折襟の軍服に似た制服と戰闘帽といふ姿で仲々勇ましい。

これは色々の意味でいゝことだと思ふ。全國の中學生は何萬ゐるか、何百萬ゐるか知らないが、國民學校を終へるとすぐに實業につくものゝ方がやはり遙かに多いであらう。その意味では、入學試驗の難關を潜つた秀才（？）といふよりは

境遇に惠まれたといふ感じの方がピンときやすいものである。そのことは高等專門學校、大學と進むに從つて顯著になるが、いはゆる制服といふものが、何かこの境遇の優越を誇るやうなものであつてはならぬことはもちろんであらう。

これまでは、しかしさういふ點は無意識に放置されてゐた。少年工が學生服を着込んで不良行爲を働いたといふやうなことはその邊の心理に通ふものがある。それがいまでは學生服と職工服といふやうな區別がなくなつてゆく。軟派の不良の實學生などゝいふものは、まづ服裝の點で魅力（？）の大部分を喪失するであらう。だがもつと重要なことは、これによつて何か學生が一種の特權階級的意識をもつ傾向があつたことを、幾分でも是正し得ると思はれることだ。

しかしそれだけの考へ方では單に徒らに身分意識や階級意識やらに捉はれてゐ

るにすぎぬといへる。學生服と職工服との接近は、學校が否應なしに現實のなかに喰ひ込んでゆき、これまでの浮き上つた教育を修正しながら、學問と生活との距離を縮めてゆかうとしてゐる傾向を暗示する。他面産業戰士の側からも、これまでの「職工」意識を克服して國家の生産戰爭の重要な一翼を擔ふ戰士としての自覺が昂揚しつゝあることを示唆する。卽ち職工は腕がいゝとか、稼ぎがいゝとかいふだけではまだ十分ではない。彼は高い意識をもつた日本人でなければならぬ。そこにこれまでとはまつたく異つた産業戰士錬成の途が示されてゐるのである。

これまでの學生が、甚しく現實から遊離した、時としては有害ですらある「學問」の奴隷であつたとすれば、これまでの職工は、賃銀の奴隷であつた。そこに兩者の間に大きな溝が生ずるばかりではなく、國家の前途に暗い影を投げる危險

もひそんでゐたのである。いつたい學問と離れて生産があるか、生産から離れて學問があるか、さらにいへば日本人でない學生があるか、日本人でない職工があるか、今日の陸海軍諸學校は、あらゆる意味で、學校教育、職工教育の弊を克服した模範的存在であるが、このことが今までいはゆる教學當局の注目するところとならなかつたのは不思議といふべきである。

インテリ兵士も强いぞ、といふのは言葉の矛盾といふべきだ。インテリなどゝいふ言葉や概念そのものを無くしてしまふことだ。日本人かどうか、それがすべてを決する。過去の呪はれた舊套を脱して、若々しく進軍する産業戰士と學生の前途に祝福の言葉を贈りたい。（九・二四）

鐵盟

九月二十七日は日獨伊三國同盟締結二週年記念日である。この日、亞歐の兩地域において世界新秩序の建設に挺身しつゝあつた國は、この建設を阻む舊勢力に向つて、斷乎たる邁進の決意を披瀝したのであつた。

恰もこの佳き日を迎へるに當り、大本營發表は樞軸國の協同作戰が愈よ實踐され、帝國潛水艦は遠く太西洋に出擊、獨根據地において盟邦の力强き援助を受けつゝ、米英を結ぶ海上ルートに直接の脅威を與へつゝある旨を發表した。ドイツ

潛水艦もまた遙に印度洋水域にその勇姿を現しつゝあるとのことであり、米英聯合軍が利によつて相結び、不斷の紛爭と欺瞞のさ中に互に猜疑の眼を光らせつゝ冥途の族を俱にしつゝあるとき、高き理念と輝ける目標によつて結合された樞軸國の間髪をだに容れるを許さぬ鐵鞏の誓ひは、彼ら聯合國を畏怖せしめるに十分であらう。

悲しむべきは米英を中心とする民主主義國が、三國同盟の眞義を理解し得ず、敢て暴力と詐謀によつてこれを離間、屈服せしめんとしたことであるが、想へば彼らにその「理解」を求めることすらが全く無理であつたといはねばならぬ。むしろ理解してもなほ、いやさらにいへば理解すればするほど彼らは樞軸國に對する敵意を感じたといふべきであらう。なぜなら樞軸國は新秩序の名において彼らがその不正を捨て去ることを要求する。彼らは彼らがこれまで世界に向つて强制

し、それによつて不當な利益を享受してゐたのであるが、彼らはアタマで樞軸國の正しさを認めても、その理解に基いて直ちにその惡德をやめることはできないのだ。それは彼ら自身を否定することにほかならないからだ。

かくてこれは本質的な秩序の對立といふべきである。單に利益の公平な分配を主張するのが樞軸國の要求なのではない。米英が米英であることをやめる日までわれわれは戰はざるを得ないのである。ましてそれは、三國同盟の締結が米英を「刺戟」したといふやうな淺薄な戰爭認識によつて把握さるべきものでは決してない。三國の鐵盟成らずんば日獨伊はいはゆる各個擊破の運命に置かれる懼れなしとはいひ得なかつたのだ。

過ぐる日、獨ソ協定の成立を見るや、これを「ドイツの裏切り」と宣傳したもの

のこそ、米英とその代辯者であつた。三國の鐵盟成らざることが、ドツイをいかに窮地に立たしめ、三國を恐るべき危險に追ひ込みつゝあつたかは、巧みに胡麻化されようとしたのである。玆にわれらは新らしき感激を以て、明日の佳日を迎へようではないか。われらの戰ひは長期戰ではあるが、無限戰爭ではない。われらは必ず勝つ。固き盟邦との締盟によつて！（九・二七）

戰ふ經濟　完

昭和十七年十二月十日印刷
昭和十七年十二月十五日發行
出文協承認一〇、〇〇〇部
初版　五、〇〇〇部

有所權著

出文協承認ア370.208

配給元　日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二ノ九

戰ふ經濟
㊟定價壹圓八拾錢
送料十五錢

著者　西谷彌兵衛（ニシタニヤヘエ）
東京市京橋區築地一ノ六

發行者　重山元
會員登錄番號　一一二一九五
東京市京橋區湊町三ノ八

印刷者　高橋赤次郎
東京市京橋區湊町三ノ八

印刷所　新興亞社印刷部

發行所　新興亞社
東京市京橋區築地一ノ六
振替東京　五九二六三番
電話銀座　六九三番

945
270

新興亞社版